

アクセス方法

<電車>
 東京～山形方面から：「山形駅」→「山寺駅」(約2時間45分)
 東北新幹線「東京駅」→「山寺駅」(約20分)
 山形山線「山形駅」→「山寺駅」(約20分)

東京～仙台方面から：
 「仙台駅」→「山寺駅」(約1時間)
 東北新幹線「東京駅」→「仙台駅」(はやぶさ：1時間40分、やまびこ：2時間10分)
 →JR山形線「仙台駅」→「山寺駅」(約1時間)

<車>
 山形自動車道
 山形北IC→県道19号線→山寺(約20分)

memo



小さな旅 ホームページ
<http://nhk.jp/kotabi>

小さな旅

～こころのふるさとをみつめて～

コブック vol. 132

閑(しず)かさに
 ～山形県 山寺～

2014年3月2日(日)放送



松尾芭蕉が「閑(しず)かさに 岩にしみ入る 蟬(せみ)の声」の句を残し、俳句の文化が根付いた山寺。老若男女みな俳句をたしなみます。地元の山寺小学校では、毎月俳句の授業があります。四季おりおり、一期一会の輝きを詠み込む俳句。雪どけ水の流氷や朝の鐘、屋根から落ちる雪…子どもたちのみずみずしい感性が、ふるさとの冬の音を捉えています。こちらは、4年生の瀬口政宗くん。山寺の雪かき音 シンシンとと詠みました。

小さな芭蕉たち

旅の見どころ 3



観光客が少ない冬、門前町の店の多くは休業します。そのとっ、3代蕉く和菓子店で、手作りの味を守るのが佐藤享さんです。冬の間、日もちする和菓子「もちこし」を毎日800枚作り、春からの開店に備えます。小豆の生地を「打ち木」で打ち固める音が、静かな門前町に響く。伝統の工夫は、生地の具合を確かめながら、響く冬。伝統の工夫は、生地の具合を確かめながら、密度を整えている証しです。地元の人からは、「まだまだ、おやじの音じゃない」とからかわれるのだとか。

門前町の和菓子店

旅の見どころ 2

山形市山寺。
 年間70万人の観光客でにぎわう東北有数の観光地も、冬はひっそりと息をひそめます。雪に包まれ静かな山寺で聞こえてくるのは、故郷の暮らしの音です。門前町のみやげ店が、春に向けてお菓子を作る音。山の上のお寺に麓(ふもと)の家族が、参道を上ってやってくる音。お堂から聞こえる念仏。小学校では、小さな芭蕉(ばしょう)たちが音を俳句に表現します。地元の人々が「1年でいちばん美しい」という真っ白な山寺の静寂に、耳を澄ませる旅です。



旅の見どころ 1
立谷川と門前町
 山寺の門前町は、立谷川に沿って細長く伸びています。江戸時代、参勤交代に伴う街道の整備や、松尾芭蕉が訪れたという評判などによって、大きく発展したとされています。立谷川沿いには、雪国の冬の風物詩、しみ大根やしみ餅が干されています。山から下りてくる猿に、大切な保存食を食べられないようにする知恵です。門前町の暮らしを守ってきた立谷川の流れる音が、静かな冬、ひときわ大きく響きます。

